早稲田大学審査学位論文(博士)の要旨
3375-2

W
学位論文
3375
2

博士（人間科学）学位論文　概要書

興味概念の再構成に関する研究

A study to construct the concept of personal interest.

Try for a human-scientific approach

2003 年 1 月

早稲田大学大学院人間科学研究科

芳野　郁朗

Yoshino, Ikuo

指導教員：　春木　豊　教授

本研究にあたって興味について以下のように仮定した興味とは哺乳類にとって特徴的な環境に対する適応方略であり，自らの周辺環境の中で主観的な有意味性を持った刺激に対して選択的な接近，回避傾向を生じるものである．またこの環境は生物からの働きかけを受けるのみでなく，生物に対して様々な形で働きかけているものである．各々の生物は自らの生物学的な制限の範囲内でこの環境からの働きかけに応じて自らの興味のあり方を変化させると考えられる．

従来の動機づけ研究と本研究との最も根本的な相違点は環境と生物との関係性に対する視点である．従来の心理学研究では人間の「こころ」を比較的固定化した構造として捉えていたと考えられる．これに対して本研究では興味について自らの存在している環境との関係の中でさらに能動的に適応を求めて変化するものと捉えている．つまり興味は実体として存在しているのではなく，環境と個人の相対的関係性の中の各々の場面で特定の側面から観察可能な全人格的反応であると捉えている．このため人間の行動の理解においては個体の要因のみではなく各々の行動の生じた周辺環境に存在している文脈が非常に重要な意味を持ったものとなるということである．

上記のような視点から本研究を振り返ると以下のようにまとめる事ができる．研究1から研究3までは従来の内発的動機づけ研究に対する反証を挙げると共に，様々な刺激に対する意味づけを行う機構としての狭義の興味のほかに，こうした意味づけ機構と共に動機づけをも含めた行動に至る一連の全人間的な反応機構としての広義の興味を仮定することが可能か否かについて検討するものであった．研究1では自己決定よりも興味のほうが課題への動機づけに対して強い影響をもつことが示されたまた研究2では課題への動機づけに対して従来の内発的動機づけ研究や学習性無力感研究において採り上げられ

てきた要因が，興味を媒介した間接的な影響をもつことが示唆された．また研究3では失敗経験後の課題に対する動機づけの維持に対して興味が非常に重要な役割を果たしている事が示された．つまり従来の研究で動機づけに対して影響を与える要因として採り上げられて来た自己決定や原因帰属などは動機づけに対して課題への興味を媒介した間接的な影響を与えていたと結論することができた．このことは興味と動機づけの関係が非常に直接的かつ密接であることを示唆しており，様々な刺激に対する興味から動機づけ，行動に至る一連の機構を包括的に捉え，広義の興味として仮定することに対して一定の示唆を与えるものと考えられる．

研究4においては思春期の親の養育態度が高校生の興味に対して与える影響が確認された．この結果，思春期において親が子供の様々な物事への取り組みに対して関わる事が，子供の興味に強い影響をもつことが示された．つまり興味は従来の内発的動機づけ研究において提唱されてきたほど生得的な要因によって構成されているのではなく，各々の時期において各個人にとって中心的な役割を果たす環境の影響を強く受けて変化するものであることを示唆するものと考えられる．

研究5ならびに研究6ではここまでの研究を受けて成人の興味の構造を明らかにし，周辺環境との相互作用のあり方を検討した．研究5では大学生の興味の構造についての検討を行った．この研究では大学生の興味が自己決定や有能感，関係性といった単純な要因によって構成されているのではなく，これらの要因が複雑に絡み合った個々の具体的活動そのものに対して向けられている事が示された．さらにこれらの興味の構造は日常生活との密接な関連において構成されているものであり，生活環境が興味に対して与える影響が非常に大きなものであることが示唆された．研究6では職業が成人の興味に対し

て与える影響が検討された．成人期において個人に対してもっとも顕在的な要請を与える環境の一つとして職業を採り上げた．この結果，職業によって興味の構造やその変化に相違があることが確認された．このことは興味が環境に対して適応的に構成され，各々の環境中で有意味な対象に対して興味が始発されるということを示唆するものである．

これらの結果から，本研究の結論として以下のように考えることができる．

1．興味は動機づけに対して直接的に影響をもつものであり，従来の研究で採り上げられてきた様々な要因は興味に対して影響を与えることによって間接的に動機づけに対する影響をもつものである．

2．興味は固体発達の初期の段階では親の養育態度の影響を強く受けて形成され，それ以降多様な環境からの要請に対して可能な限り適応するように変化するものである．

3．興味を喚起する対象は従来の研究で採り上げられてきたような単純化された要因ではなく，これらの要因が複雑に絡み合った特定の構造を持った対象である．